ペーターラング（モーツァルテウム ピアノ科主任教授）

「現代音楽を今取り上げる事は，非常に大切だと思います。」

きき手　赤松憲樹（学校法人 尚美学園理事長）

「やはり，どこかの学校で常に，現代音楽に関心を持っていないと……。」

演奏する上で必要なことは

赤松　ラング先生の日本で演奏された今回のプログラムは，ウィーンのモーツァルト・シューベルト・ブラームス・シェーンベルクですが，その基本的なお考えは如何でしょうか。

ラング　ウィーンの音楽の進歩と言いましょうか。最初はモーツァルトを弾かないで，ベートーヴェンを弾こうと思いました。ベートーヴェンからシューベルトにうつっていき，波はシューベルトからブラームスに向け，ブラームスからシェーンベルクに行って，シェーンベルクで新しい波を彼自身でまた新たに起こすわけです。12音で出来ているという事は，非常におもしろい事だと思います。

赤松　では，それらを演奏なさる上でのお考えを教えて頂けますか。

ラング　それは，まず譜読みを正確にする事です。作曲者の自分の作品への姿勢はそれぞれ違うわけで，出来るだけそれに忠実に演奏する事が大切だと思います。個々の作品にはそれぞれに特徴があるので，それを殺してしまう様なやり方はしません。特別な事をやろうというのではなく，何が書かれているかという事を正確に読み取り，一つ一つこなしていく事です。もちろん他の曲からの影響もあると思いますが，でもその曲に一つ一つ忠実にやっていきたいです。

赤松　先生は，モーツァルトの権威という定評がおありですが，彼の魅力というのはどのような所にあるとお考えですか。

ラング　素晴らしいスピリッツです。モーツァルトが，他の作曲家に比べて，特に魅力的であるとかないとか，そう言った見方は私にはわからないですが，モーツァルトの事をよく深く知っていればいるほど，それだけ彼を高く評価する傾向は，心理的に言っても当然ですよね。特にこれといって，モーツァルトだけが群を抜いていると言うような事は，ないと思います。

演奏家に望まれる資質

赤松　モーツァルトのインターナショナルコ

ペーター・ラング●1946年生まれ。オーストリアはランバッハの出身。オルガニスト兼指揮者である父から音楽の手ほどきを受け，10才を数える頃にはモーツァルトのピアノ協奏曲をもって演奏会を開く程の才を見せる。
10才でザルツブルクのモーツァルテウム音楽院に入学。同時に普通の学校にも通っていた。修了後，アメリカの大学の研究所に籍を置きながら演奏活動を続け，33才の最年少でモーツァルテウム音楽院の教授に就任，39才でその主任教授となり現在に至る。
オーストリア国内をはじめ，世界各地で演奏活動，音楽祭への出演などに活躍。
クルト・ノイミュラー，フリードリッヒ・グルダ，ケサ・アンダの各氏に師事。
赤松憲樹●1933年東京生まれ，1953年に東京芸術大学別科ピアノ専攻修了，1956年慶応義塾大学経済学部卒業後，同大文学部哲学科を経て，尚美学園の教育指導にあたる。新しいメディアを所有する現代をふまえ，グローバルな視点からの音楽教育の必要性を説き，学校法人尚美学園理事長・学園長のほか財団法人日本音楽教育文化振興会理事長，日本電子音楽ソフトウェア協会顧問，音楽教育を考える国民会議理事，日本吹奏楽学会理事長，日本私立短期大学協会理事等を兼任し，現在に至っている。

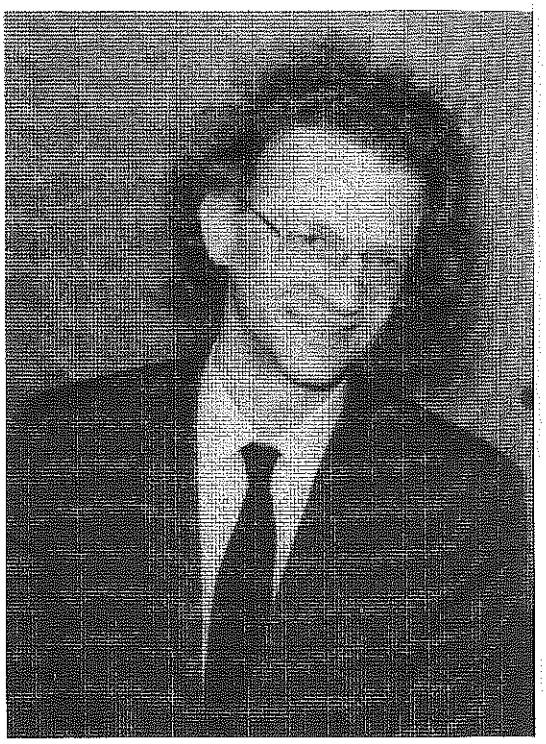
ンクールの最高委員会をなさっていると，コンクールを通して，各国のモーツァルトに関する考え方とか，ピアニストを志望する人達と接触する事が多いと思いますが，ご覧になっていて，何かアドバイスがありますでしょうか？

ラング　コンクールにはあまり賛成派じゃなくて，やっていながら，これが音楽的かどうか，と考えさせられます。若い人達が有名になるチャンスだとは思います。しかし，演奏と言うものはもっと繊細なはずです。コンサートで演奏するのと，コンクールで演奏するのとでは自ずから違って来ますからね。モーツァルトのコンクールで，優勝者を選んでいく時にどういう人を望むかと言うと，ただ正しく弾いた人よりも，なぜこう書かれているか等，具体的に考えてやっている人を選びたいです。素晴らしい音楽家というのは，ただ単にその作品を演奏するだけでなく，そこからかもし出させる情景を浮かびあがらせる事が出来る人という事です。そういう可能性を持った人を見つけられたらいいですね。

赤松　では，音楽家や演奏家の資質という問題がそこに出てくるかと思いますが，それについてはどう思われますか。

ラング　重要なことは，一つずつの音符をフレーズとして捉えられるかということです。音楽というものは感情を持っています。まず最初，演奏家自身が，その音楽を聞いて何かを感じ取り，それを今度は聞く側に演奏と言う形で訴えます。一つ一つの音が響きあってフレーズを作りあげ，それがどんなフレーズになるかで決まるのです。そのフレーズの形の素晴らしさが聴衆を説得するという事につながります。自分の想像力と，作曲家のクリエイティブとの間にいるのが演奏家であると思います。聴衆も説得された事によって，その演奏家を理解する事になります。

赤松　説得力といっても，いろいろな説得の仕方があるかと思いますが…。



PETER・LANG ■ペーター・ラング

ラング　勿論，テンポの違い，アプローチの違いといった細かい違いはあるのだけれど，これらの要素が調和し合った時，そこに強い説得力が生まれると私は言いたいのです。一つの音楽に含まれているあらゆる要素が混ざりあって，魂を作りあげるのです。

赤松　では，説得力というものを考えた場合，例えば，まず作曲家によってその扱い等を仕分けしてしまい，先入観が共に出てしまう，という形の中で果たして良いのかどうか…。

ラング　もちろん，作曲家にはそれぞれのスタイルがあります。そしてそれがそのまま，その作曲家達が活躍した時代を彷沸させるのです。しかし，机上の知識だけで当時の事を語ることは出来ません。

例えば，モーツァルトを例にとると，私達には当時の事は経験出来ませんが，当時の様子は彼の作品を通して，「伝統」という形で知る事が出来るわけです。やはり，自分自身が個々の作品をどう感じ取ったか，そしてそれをどう表現するかという段階で，初めて200年前の

■赤松憲樹

モーツァルトを理解する事が出るのです。

赤松　やはり自分を表現できる人格を養うという事になるのでしょうか。では，日本のピアノを学ぶ学生について一言お願いします。

日本のピアニストはとにかくよい

ラング　まず，最初に申し上げたい事は，日本のピアニストはとにかく良いピアニストだということです。例えば，モーツァルテウムのことを例にとってお話しますと，学生の60%が日本人なのです。入学試験はとても難しいのですが，日本人学生はよくやっていますよ。2番目に，これは日本人に限った事ではありませんが，若い音楽家達は恥ずかしがり屋が多いですね。これはおそらく，教育や社会，哲学といった事が関連しているのではないかと思います。又，日本人の学生さんは非常に教育がされているという事が言えます。しかも，ヨーロッパ人に比べてご両親が非常に教育に対して関心を持っておられる気がします。

8～10才と言う小さい子供にもかかわらず，とても感受性や表現力が豊かな演奏をしています。

赤松　でもだんだん歳が上になると無くなっていく感じですね。

ラング　15～17才となると，どこでもそういう事になりますね。

赤松　最初はもっと素直に表現出来ても，どこかで大きくなるの抑えられてしまうのかもしれませんね。

ラング　生活というもの自身に目覚めて来て，だんだん大変になっていくのでしょう。8才位の時は，お母さんに「やりなさい」と言われて素直にやっていて，他に興味のあるものが少ないのでは。何かに本当に集中して出来る歳というのは，上に行くと難しくなっていくのではないでしょうか。勿論，一般的な文化の違いという事もあげられると思います。

赤松　その子を例えば，音楽家としての資質を持ったピアニストに育て上げるために，何かアドバイスを頂けますか。これはまわりの問題だとも思うのですが。

ラング　まず生徒自身の内面の問題になって来ます。二番目に，学生に個性的であれと指導する事ですね。他の学生と違う所を見出してあげるのです。

現代音楽の位置付け

赤松　モーツァルテウム音楽院のオーストリアにおける位置づけや教育理念・特徴などを教えて下さい。

ラング　オーストリア国立大学です。ヨーロッパの方では，ほとんど国が音楽大学を持っています。モーツァルテウムは，本当のプロの演奏家を養成する所です。もちろん，全員がそうなっているわけではないのですが，それが目標です。ですから，バッハから現代音楽まで，まんべんなく様式をこなしているような生徒を選びます。今までモーツァルテウムでは現代音楽にあまり興味が持たれてなかったのですが，ここ最近始められようとしています。

赤松　現代ものを扱う場合に，どんな事をお考えですか。

ラング　現代音楽を今取り上げる事は，非常に大切だと思います。好きとか嫌いとかいう次元の問題ではなくて，どうしてこういう音楽がここに出て来て，どういう流れになって

いるかという事が，重要だと思います。

赤松　今の時代に子供達に現代ものを与えるという事は，何か違った形での試みがありますか。

ラング　現代ものを弾くにはやはり，過去の音楽を絶対に知る必要があります。音楽は感動に訴える事が最終的な目的です。現代音楽はもしかすると，今まである古典的なものに比べると，エモーショナルの所にいかない，あるいはエモーショナルな部分に一致するという事は言えないかもしれないと思います。全部の現代音楽が，そうだというわけではないのですが。

赤松　ピアノ音楽を，心に常にトライさせていかせる形として考えていくと，好き嫌いは別にして，現代音楽はトライさせていかなくてはいけないと考えています。やはり，どこかの学校で常に，現代音楽に関心を持っていないと…。

ラング　好きとか嫌いは別問題ですよね。以前，サマースクールでシュトックハウゼンを取り上げ，すごくおもしろかったのですが，あまり聴衆がいませんでした。

赤松　私の方で財団があり，こちらの現代ピアノコンクールの課題曲がシュトックハウゼンだった時，とても難しく，応募者が少なかったのです。

ラング　しかし，ベートーヴェン，モーツァルトを，シュトックハウゼンはすごく良い演奏をします。同じ作曲した人のレベルでものを語るし，演奏してくれます。作曲家同士だから，わかりあっているのではないでしょうか。演奏家と作曲家の間柄じゃないので。問題は，シュトックハウゼンは気が狂っているわけでもなく，我々がシュトラックハウゼンの曲が分からない事だと思います。とにかく非常に偉大なる作曲家です。

赤松　モーツァルトの権威のプロフェッサとシュトックハウゼンの現代音楽の事が語れてとても嬉しいです。

ラング　全ての音楽に興味を持っています。もちろん，その中に現代音楽も含まれています。

赤松　お疲れの所ありがとうございました。

ラング　とても楽しかったです。

（通訳・齋藤政子）

尚美学園のPIANO NEWSより抜粋させていただきました。文章は壁谷文男氏によるもの。

国際ヤングミュージシャンフェスティヴァル

プレミオ　モーツァルト
参加へのお誘い

イタリアのヴェローナ市では，毎年，子供達を主役にして，クラシック音楽の演奏や劇の開催，美術やオモチャの展覧会，スポーツ施設の開放等，子供専用に都市を１週間ほど提供し，「国際ヤングミュージシャンフェスティヴァル」を開催しています。これは，上記のような環境の中で，子供達が色々なことを学びとり，ヤングミュージシャン達に，良い刺激を与えようという趣旨のもとに行なわれる素晴らしい催しです。

「プレミオ　モーツァルト」は同フェスティヴァルのフィナーレを飾るコンクールで，クラシックであればどんな楽器でも参加できます。日本からも1989年，1990年と続けて，沢山の子供達がテープ審査を受け，その中からＰＴＮＡヤングピアニスト・コンペティション上位入賞者が本選に進んでいます。（会報146，152号参照）

今年もまた案内がまいりましたので，海外を体験する良い機会でもありますので，今年度ＰＴＮＡヤングピアニスト・コンペティションの上位入賞者の方は，是非御参加下さい。詳しくはＰＴＮＡ本部事務局へお問い合せ下さい。（お問い合せ締切１月14日）

社団法人　全日本ピアノ指導者協会

〒170 東京都豊島区巣鴨1-15-1
☎03(3944)1583(代)